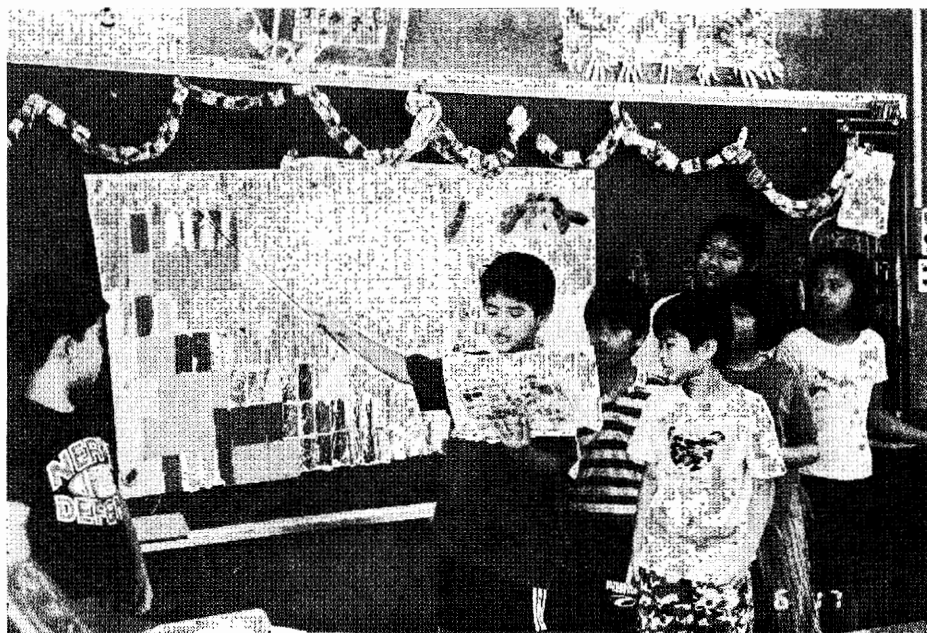


子どもが生き生きと、楽しく取り組める総合的学習の展開
～身近な素材を使つての教材開発～



浦添市立牧港小学校
友利 宏

11年度前期

21-1

目 次

I	テーマ設定の理由	1
II	研究目標	1
III	研究仮説	1
	1 基本仮説	1
	2 作業仮説	1
IV	研究内容と方法	2
	1 研究の構想図	3
	2 「総合的な学習」の定義	3
	3 「総合的な学習」の必要性	3
	4 「総合的な学習」の背景	
	5 教科審答申・学習指導要領に基づく 「総合的な学習」の時間の分析	4
	6 「総合的な学習」のカリキュラム構想	4
V	研究の実際	10
	1 単元名	10
	2 単元目標	10
	3 単元について	10
	4 指導計画	13
	5 本時の学習	16
	6 検証授業の反省	17
VI	研究の成果と課題	18
	1 成 果	18
	2 課 題	18
	おわりに	18
	主な引用・参考文献	19

「子どもが生き生きと、楽しく取り組める総合的学習の展開」

～身近な素材を使つての教材開発～

浦添市立牧港小学校教諭 友利 宏

【要 約】

本研究は、できるだけ子どもの身近な素材を教材化することによって、子どもが生き生きと、楽しく取り組める総合的学習の展開を図ろうとするものである。

身近な素材ではあるが、ふだん興味関心がないものでも「〇〇不思議発見！」ということで、見つめ直して見るとそこにはいくらかでも「なぜ?」「どうして?」など不思議なことがたくさんあることに気付く。

そのことを元に自分なりに深めた「総合的な学習」の理論研究と合わせ「総合的な学習単元」を設定し、授業実践することで子どもの意欲関心も高まり、父母や地域の方々の協力も得ることができ、子どもが生き生きと、楽しく取り組める「総合的学習」を展開することができた。

キーワード □総合的学習 □生きる力 □総合的学習のカリキュラム構想

I テーマ設定の理由

21世紀を目の前にして、私たちの社会は、国際化、情報化、少子・高齢化、価値観の多様化など大きく変化している。さらに環境問題、エネルギー問題等、危機的多くの課題も共有しており、よりグローバルな視点に立った上での解決が望まれるところである。このような状況においては、一人一人が常に問題意識を持ち、考え、実践・判断し、はっきりした意思表示ができ、強くたくましく生きていく「生きる力」が求められる。

そこで、これからの学校教育の在り方として、「ゆとり」の中で自ら学び、自ら考える力、特色ある教育活動、特色ある学校づくりを基本とした「総合的な学習の時間」が、各教科、道徳、特別活動に加えて新たに創設された。

ところで、私の勤める小学校では平成9、10年度の2カ年にわたり沖縄県と浦添市の委嘱を受け「平和教育研究研究校」として取り組んできた。「命の尊さに気づき、平和を願う心の育成」～地域素材の掘り起こしと総合学習の展開～をテーマに低、中、高学年相応の重点目標をかけた、それを元に総合的単元を設定し、授業実践を行なった。

地域の特性を生かした2カ年間の取り組みは、差し迫った「総合的な学習の時間」の実施へ向けて大きな成果を得ることができた。本研究はそのことを踏

まえ、子どもにとって身近な素材を見つめ直す中で「ふしぎ」や「疑問」を引き出し、興味・関心を喚起することで、生き生きと楽しく取り組める総合的学習が展開できるのではないかと考え本テーマを設定した。

II 研究目標

子どもが生き生きと、楽しく取り組める総合的な学習の展開を図るため、身近な素材を取り入れた具体的な「総合的な学習の時間」の展開の仕方を研究する。

III 研究仮説

1 基本仮説

子どもにとって身近な素材を「総合的な学習」のねらいに即して教材化し、自らの課題を追求する学習を組織すれば、自ら学び、自ら考え、問題を解決し、楽しく取り組める総合的学習が展開できるだろう。

2 作業仮説

仮説1 身近な素材に対して「〇〇不思議発見カード」を用い、不思議発見をゲーム化し発見競争と

して仕組めば、様々な不思議や疑問に気が付くであろう。

仮説 2 自ら発見した「不思議」や「疑問」を元にして課題づくりをすることで自ら生き生きと追求する学習が展開できるだろう。

仮説 3 課題を追求する場において、同じ課題の

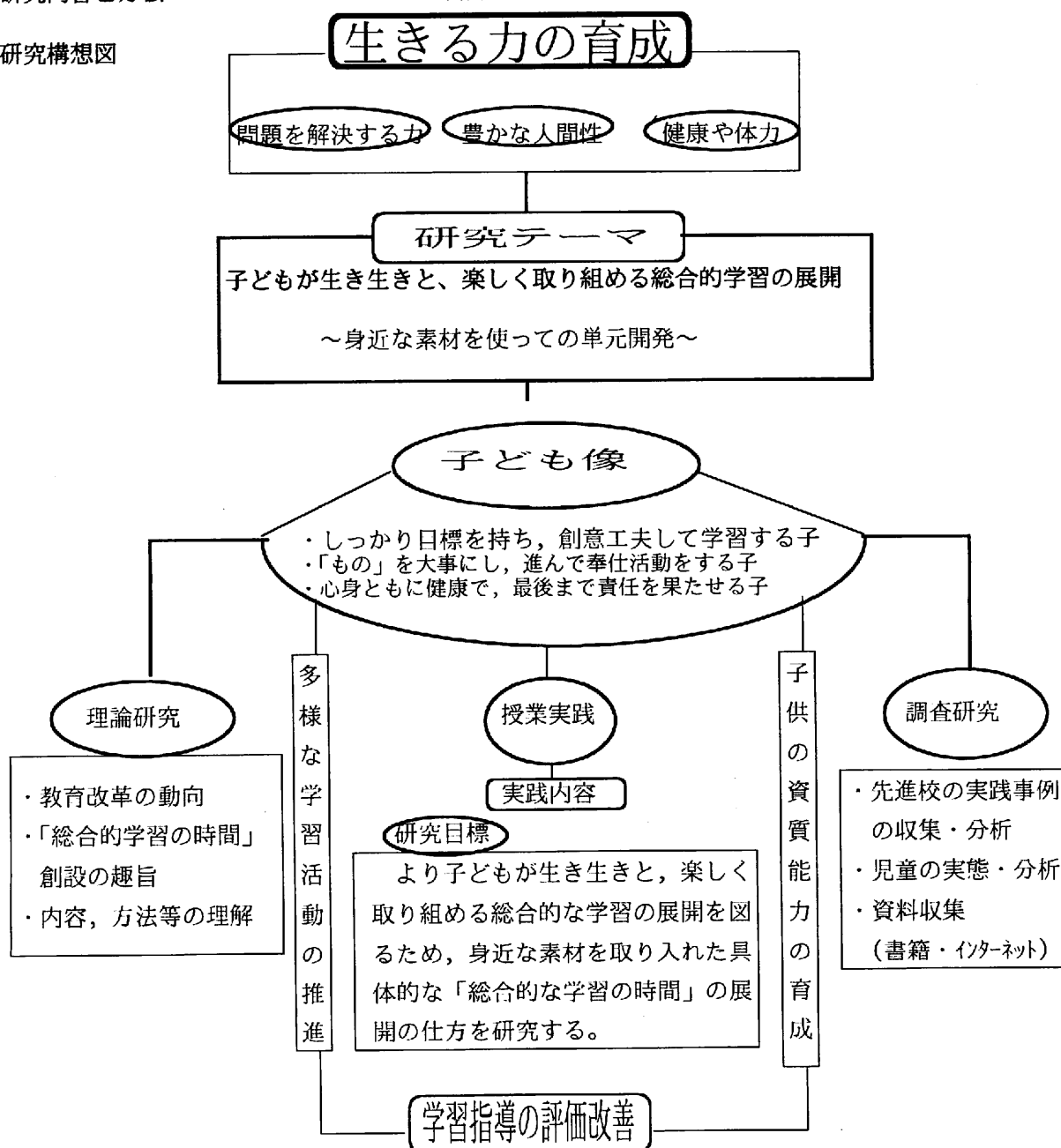
IV 研究内容と方法

1 研究構想図

者同士でグループを構成し、課題解決にあたればお互いが協力して調べ、よりよく問題を解決することができるであろう。

仮説 4 まとめ方や発表の場において効果的なまとめ方や発表の方法を身につけることにより、お互いの学び方や考え方がわかり、知識の共有化も図れ生き生きと学習することができるだろう。

図表-1



2 「総合的な学習」の定義

総合的な学習は、子ども自身が身のまわりの課題・問題を解決する資質や能力を身に付け、探求活動に主体的、創造的に取り組んでいく感度を育てようとするものである。

さらに、社会生活を主体的、創造的に送る上で必要な資質や能力（生きる力）としての思考力、判断力、表現力、問題解決の力といった学習の方法や新しい考え方、個性を大事にし、ともに生きようとする人間理解の意識や態度を育てようとするものである。

このような資質や能力の育成は、もちろん各教科でも重視されるが、総合的な学習では、さらに重視されるところに特徴がある。とともに、各教科等で学んだものを結び付け、総合化し、現実の様々な問題に立ち向っていく、すなわち「横断的・総合的な学習」の展開がより効果的であるとしている。

3 「総合的な学習」の必要性

(1) 社会状況への対応から

変化の激しい社会状況の中で、身の回りの切実な問題や社会の課題に取り組み、判断したり、行動したりすることが必要となってきた。これらの課題は従来の教科や領域にまたがることになる。

(2) 学問の多様化への対応から

社会の変化に伴って、「総合情報」、「人間環境」などのように学問自体の統合や再編成が行われ、学問が多様化してきている。その教育内容に対応できる小・中学校の教育への要求。

(3) 子どもの状況への対応

現代の子どもの抱える多くの問題（非行、いじめ、不登校等）から、人間としての全体性（トータルバランス）を子ども一人一人に育成することの大切さ。

(4) 教科分立の課題への対応

伝統的な教科分立的な教育だけでは、自分の生き方について主体的に考え、判断し、行動するための「知恵」をいかに身につけさせるか。

(5) 子供中心の教育への対応

子供の興味や関心、こだわり、意欲という視点から学習内容を見直し、子供の側に立った教育を実践するために、教科・領域の枠を越えた横断的・総合的な学習の必要性が高まっている。

(6) 子供の体験の回復への対応から

現代の子供は、生活経験が不足し、知識を生かす場が少ない。学習が生活と結びついたときに生きて働く力となる。そのために体験や活動を重視する教育活動の工夫が強く求められている。

4 総合的な学習の背景

(1) 教科等の構成の変遷から

総合的な学習は遠く明治30年代までさかのぼることができ、以後それぞれの時代に応じて様々な取り組みがなされてきた。

(近代学校成立)

小学校令施行規則	1900年
修身、国語、算術、日本歴史、地理、理科、 図画、唱歌、体操、裁縫、手工、農業、英語 (二は選択教科)	
↓ 国民学校令	1941年
国民科(修身、国語、国史、地理)、理科 (算数、理科)、体錬科(体操、武道)、 芸能科(音楽、習字、図画、工作)	
↓ 学校教育法施行規則	1948年
国語、社会、算数、理科、音楽、図画、 工作、体育、道徳(1958年)、特別活動	
↓ 学校教育法施行規則	1991年
国語、算数、社会、理科、生活科(低学年のみ 理科、社会を廃止し、1989年より実施)、 音楽、図画、工作、家庭、体育、 道徳・特別活動	
↓ 学習指導要領	1998年
各教科、道徳、特別活動 総合的な学習の時間	

(2) 総合的な学習の流れ

(戦後に見られる教科の枠を越えた子供中心の教育活動) → 合科のおよび総合的な学習

コア・カリキュラム (昭和25年頃)

現実に子供が当面している問題の解決を中心とする社会科・理科を中核とする内容教科で統合し、用具教科としての国語、算数などを周辺に配置した。

合科的な指導 (昭和 53 年)

低学年においては、合科的な指導が十分できるようする。

生活科新設 (平成元年)

具体的な活動や体験を通して、自分と身近な社会や自然との関わりに関心を持ち、自分自身の生活について考えさせるとともに、その過程において生活上必要な技能を身につけさせ自立への基礎を養う。

横断的・総合的な学習 (平成 8 年)

「生きる力」という全人的な力をはぐくむということを踏まえると、横断的・総合的な指導を一層推進し得るような新たな手だてを講じて豊かな学習活動を展開していくことが極めて有効である。

5 教科審答申・学習指導要領に基づく

「総合的な学習の時間」の分析

(p・5 図表-2 参照)

○「総合的な学習の時間」の基本的な考え方

中教審答申と教課審答申を踏まえながら、新学習指導要領に基づき「総合的な学習の時間」についての基本的な考え方を図表2のようにとらえた。この時間の準備にあたって特に確認しておくべきことは、a創設の趣旨、bねらいと学習活動、c評価、d授業時数の4項目である。

「総合的な学習の時間」は、地域や学校の実態をより一層理解した上で、各学校の創意工夫を生かして実施することが必要であり、学習課題や学習活動は各学校において、以上のことを踏まえて決定されなければならない。

評価については「生きる力」の育成を目指す指導では、自己評価能力を育てる評価のあり方を研究し取り入れていく必要がある。

6 総合的な学習のカリキュラム構想

(1) 総合的な学習で学ぶもの

国際理解、情報、環境、福祉・健康などの横断的・総合的な課題、児童の興味・関心に基づく課題、地域や学校の特色に応じた課題などについて、学校の実態に応じた学習活動を行なうものとした。

具体的な活動内容としては、

① 国際理解、情報、環境、福祉・健康、平和学習等横断的・総合的な課題

(現代社会のかかえている差し迫った課題)

他に、産業と経済、人権、生命、性

② 児童・生徒の興味・関心に基づく課題

(現代社会の課題を主体的に受けとめ、自己の確立を図っていく自分自身の課題)

進路、生き方、人間、自分、人間関係、社会参加(職場体験、ボランティア活動)等

③ 地域や学校の特色に応じた課題

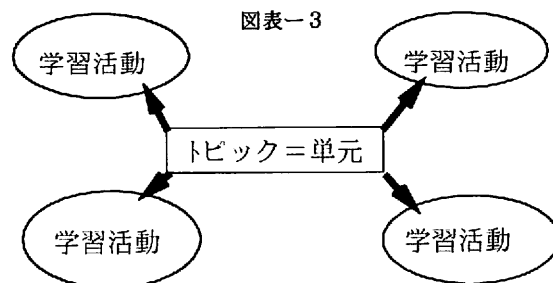
(現代社会が縮図となって渦巻き、自分自身が生活している場としての学校や地域の課題) 地域、ふるさと、郷土といったテーマの他に、自然環境(河川、湖沼、山野、海など)、地場産業(農・漁・工・林業・伝統工芸など)や歴史・伝統・文化(行事)や人々の暮らしなど

(2) 総合的な学習のカリキュラム構想の視点

① トピック型カリキュラム

総合的な学習のトピックになりそうな具体的な単元から組み上げて行く方法。子供の興味・関心を中心に進める場合が多い。内容の系統性や身に付けるべき学力の保障が難しい。

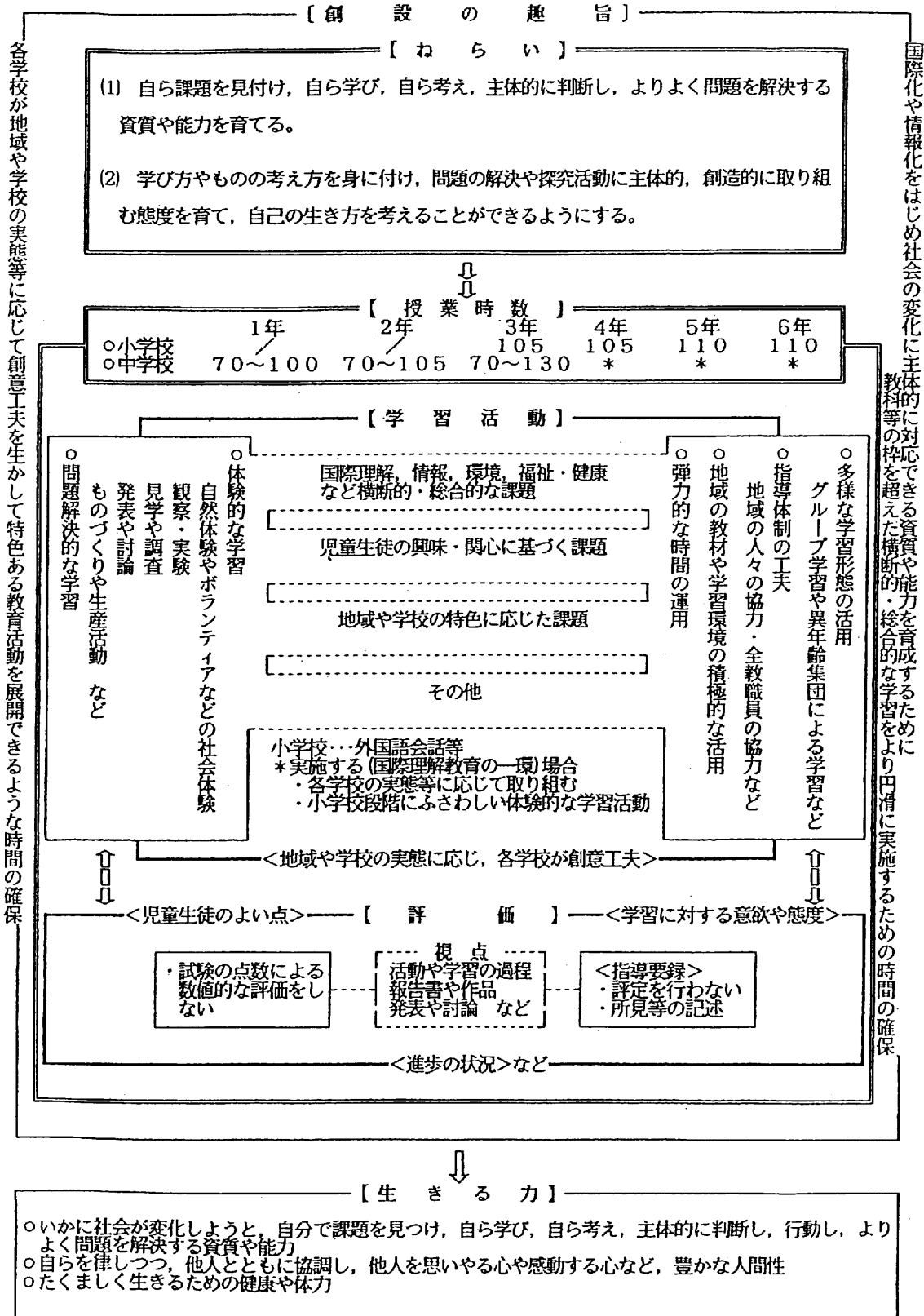
図表-3



(図表一 2) 教科審答申・学習指導要領に基づく

「総合的な学習の時間」の分析

(小・中学校)



各学校が地域や学校の実態等に応じて創意工夫を生かして特色ある教育活動を展開できるような時間の確保

国際化や情報化をはじめ社会の変化に主体的に対応できる資質や能力を育成するために教科等の枠を超えた横断的・総合的な学習をより円滑に実施するための時間の確保

② フレーム型カリキュラム

各学年のカリキュラムの領域と系統を考えて学習活動を組み上げて行く方法で伝統的なカリキュラム開発の方法。

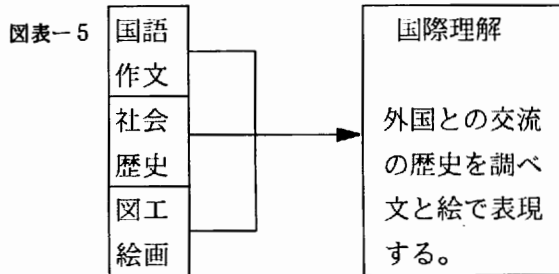
どうやって子供たちの自主的な体験活動を励起するかがポイント。 図表-4

	3年	4年	5年	6年
領域 1	単元	単元	単元	
領域 2	単元	単元		単元
領域 3		単元	単元	単元

③ クロスカリキュラム

(ア) 合科型

関連する内容、あるいは関連づけられる内容を2つ以上の教科を合わせて学習として組織するもので教科の枠組みはそのまま。

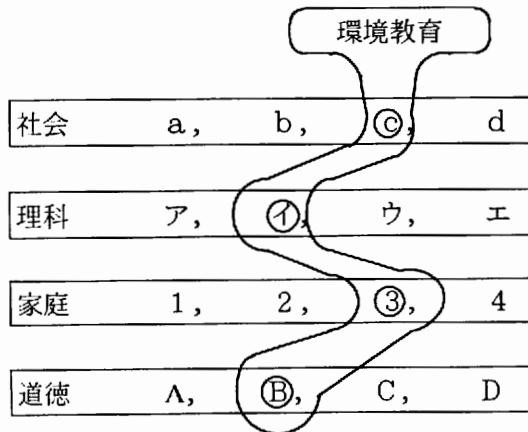


(イ) 横断的

あるテーマのもとに各教科等の関連する内容を取り出して、学習として組織するもの。

各教科の中に分散している内容を集約して関連的、有機的に扱う。

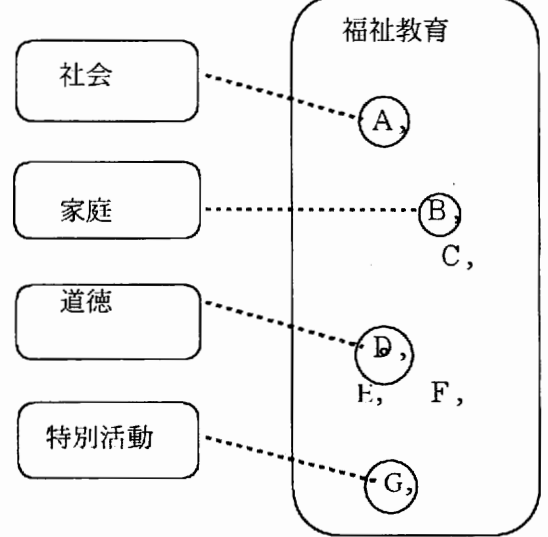
図表-6



(ウ) 総合型

特定のテーマを中心に学習を組織するもの

で、各教科等の内容に関連するものは取り入れるもののテーマの解決が優先される。 図表-7



(3) 興味・関心を踏まえた学習課題の設定

学習課題として何を設定するか、そしてどのような学習方法や活動を取り入れるかは、「総合的な学習の時間」のねらいにせまるうえで非常に重要である。

○学習課題の設定

図表-8 (p 7) では、縦軸に I 児童生徒の興味・関心が、横軸に II 地域や学校の特色と III 横断的・総合的な課題が示されている。縦軸の I 児童生徒の興味・関心に関する調査結果を注視し、調査結果から取り上げられそうな学習課題を想起する。同時に、どのような学習方法でどのような活動が可能となるのかという点とともに、学習目標についても考えておくことが大切である。

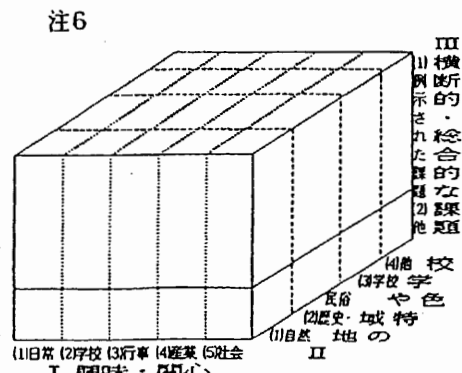
また、I 児童生徒の興味・関心と横軸の II 地域や学校の特色とを関連させることで、学習課題に何を設定すればよいのかがより具体的になる。

このように本資料を検討資料として活用することで、各学校に応じ、児童生徒の興味・関心を踏まえたいくつかの「総合的な学習の時間」の課題が設定できる。

○興味・関心を踏まえた学習課題の設定

図表-8

○地域や学校の特色 (現地調査から設定) ○今日の課題 ○興味・関心 (5つの観点) (視点にする3つの窓)	Ⅱ 地域や学校の特色 注5				Ⅲ 横断的・総合的な課題 注4																
	(1) 自然		(2) 歴史・民俗		(3) 学校	(4) 他	(1) 例示された内容			(2) 他											
	近くの山や森	近くの川や海	借用可能な田畑	景観とその変貌	史跡や建造物	伝統的な祭	伝統技術の継承	習俗の伝承	立地環境	特色ある行事	研究歴とその成果	地域の活動や施設	特産品	国際理解	情報	環境	福祉	健康	消費者教育	人権尊重教育	
I 興味・関心 (1) 日常生活での疑問 (2) 学校生活での関心 (3) 地域行事への関心 (4) 地域産業への関心 (5) 現代社会での疑問	注1	注2																			
	【娯楽】 遊びや趣味から生じる関心や疑問の有無と内容把握																				
	【生活】 身近な習俗や史跡に関する不思議や疑問の有無と内容把握																				
	【自然】 自然造形美やその破壊などに関する疑問の有無と内容把握																				
	【校内行事】 関心ある学校行事の有無と内容の把握																				
	【校外活動】 関心ある校外活動の有無と内容の把握																				
	【授業】 学習内容から生じる関心や疑問の有無と内容の把握																				
	【地域の行事】 伝統的な祭りや行事などを知っているかどうかを把握																				
	【地域の活動】 地域で取り組んでいる活動を知っているかどうかを把握																				
	【行事への参加】 地域行事などへの協力度や参加意欲を把握																				
	注6																				
	【農林水産業】 地域の農林水産業の特色を知っているかどうかを把握																				
【商工業】 地域の商業や工業の特色を知っているかどうかを把握																					
【産業発展】 地域産業の発展について考えたことがあるかどうかを把握																					
【世界情勢】 地域紛争や貿易などへの疑問や関心の有無と事項把握																					
【社会問題】 環境問題や福祉問題などへの疑問や関心の有無と事項把握																					
【各地の文化】 国内外各地の人々の暮らしへの興味・関心の有無の把握																					



(4) 「総合的な学習」単元分類

(全国の開発研究校の実践分類から)

先の教育課程審議会の答申では『総合的な学習』の具体的学習活動の一例として、

- ①国際理解 ②情報 ③環境 ④福祉・健康

の4つの観点が示された。

以下は全国の実践事例を内容別に整理、分類(山形県南陽市立荻小学校 山内教諭による)したものである。

A 環境についての実践内容

図表-9

実践分類	内 容
①環境調査 タイプ	(川や雨、気の身近な調査活動等) 川の浄化調査, 大気汚染マップ, 指標生物調査, 公害調べ, 地球の公害問題を知ろう, 地域の水調べ, 川を探る, 地球探検隊, 塩田について, 森林調べ, 自然探検隊等
②自然保護 活動タイプ	(身近な生物の飼育や保護に関する活動など) 岩ツバメ調べ, ホタルの飼育, 鮭の飼育・放流, ふるさと自然回帰作戦, 花いっぱい活動等
③生き物との 関わり重視 タイプ	(身近な自然をモチーフに, 生き物との関わりに重点を置いた活動など) 足跡ウォッチング, 私の木の年間観察, 動物の飼育活動(うさぎ, 馬, 鳥, 牛, 豚, やぎ等), 森林の働き調べ, 生き物図鑑づくり, 動物と環境の関わりを考えよう, 野鳥の楽園作り, ビオトープ制作等
④体験活動 重視タイプ	(地域の環境を元にした体験活動など) ぶどう園づくり, 田植え～稲刈り体験, 手作り自然池, ネーチャーゲーム, 廃油石鹸づくり, いかだ作り, まつたけ山探検, 炭焼きをしよう等
⑤ゴミ問題 中心タイプ	(ゴミ・リサイクル・エネルギー問題に関する活動など) ゴミ問題調べ, リサイクル調査隊, ゴミ拾い活動, 校区クリーン作戦, 学校のゴミ処理調べ, エネルギーと環境等
⑥学校行事に 発展タイプ	(学校行事全体を中心にした活動など) 〇〇フェスティバル, 地域の資料館を作ろう, 七夕集会, 忍者村祭り等

B 国際理解についての実践内容

- ①人的交流中心タイプ(外国人との交流を中心にした活動など)
- ②世界理解中心タイプ(「世界」そのものの理解に関する活動など)
- ③外国語学習タイプ(外国語～主として英語～の語学学習など)
- ④世界の料理中心タイプ(世界の料理に関する活動など)
- ⑤その他国際に関する活動タイプ(世界平和, 国際環境に関する活動など)

C 福祉・健康についての実践内容

- ①人的交流中心タイプ養護学校や老人ホームとの交流に関する活動など)
- ②障害体験タイプ(障害を持った人になったつもりで考える活動など)
- ③勤労ボランティア活動タイプ(地域の福祉やボランティア活動に関する活動など)
- ④命や健康に関する活動タイプ(生命誕生や身体健康に関する活動など)
- ⑤人権教育・防災・諸教育(男女の役割や人権, 防災に関する活動など)
- ⑥自分を見つめるタイプ(自分自身の生き方等を中心に据えた実践)

D 「地域」についての実践内容

- ①食べる活動中心タイプ（地域素材を生かした食に関する活動など）
- ②地域開発タイプ（地域の開発に関する活動等）
- ③地域の人やふるさと学習タイプ（自分たちの地域の人を中心に据えた活動など）
- ④その他の実践タイプ

E 情報についての実践事例 ホームページ作成、インターネットギャラリーなど

(5) 移行期・新課程におけるカリキュラム作り

① 現行・移行期・新課程における授業時数の比較

平成14年の新教育課程の完全実施を目指し、平成12年・13年度は移行期となる。各学校においては教育課程を編成する際において移行期各年度の余時数をを基礎基本の充実にあてるとともに「総合的な学習の時間」もそこから見だし試行実践することで完全実施に備えることとなっている。

現在4学年を担当していることから、以下4学年を中心に考察していきたい。

図表-10 移行期年間指導計画作成資料 東京書籍

区分	各教科の授業時数										道徳	特活	総合	総時数	時数差
	国語	社会	算数	理科	生活	音楽	図画工作	家庭	体育						
第4学年	現行	280	105	175	105	70	70	105	35	70	1015				
	平成12年	235	82	151	82	60	60	105	35	70	880	135			
	平成13年	235	67	131	68	60	60	105	35	70	831	184			
	平成14年	235	85	150	90	60	60	90	35	35	105	945	70		

② 弾力的時程表の組み方

ア、1単位時間を定める際の配慮事項

学校教育法施行規則第24条の2別表第1に定める授業時数の1単位時間は45分とするとの規定は従前どおりとしており、総則でいう「年間授業時数を確保しつつ」という意味は、あくまでも授業時数の1単位時間を45分とした、学校教育法施行規則第24条の2別表第1に定める授業時数を確保するという意味であることに留意する必要がある。

児童の学習についての集中力や持続力、指導内容のまとめ、学習活動の内容などを考慮してどの程度がもっとも指導の効果をあげ得るかという観点から決定する必要がある。

イ、90分1ブロック制とモジュール制

15分を1M(モジュール)とし、この組み合わせによって、学習内容・学習活動に最適な時間を設定する。

2モジュールの授業、6モジュールの授業と、

授業時間そのものを柔軟に考えることができる。

○ 15分を1M(モジュール)の例

15分単位で時間割を設定し、休み時間(5分)をはさむ95分を1ブロックとした時程表の例

図表-11

8:00			
8:15	清	掃	
8:30	朝	の	会
	1	(3M)	
9:15		(45分)	
9:20	休み時間	(5分)	
	2	(3M)	
10:05		(45分)	
10:25	リフレッシュ	(20分)	
11:10	3	(3M)	
11:15		(45分)	
	休み時間	(5分)	
12:00	4	(3M)	
13:15		(45分)	
	給食・昼休み	(75分)	
14:00	5	(3M)	
14:05		(45分)	
	休み時間	(5分)	
14:50	6	(3M)	
		(45分)	
	放課後		

千葉県成田市立成田小学校参考

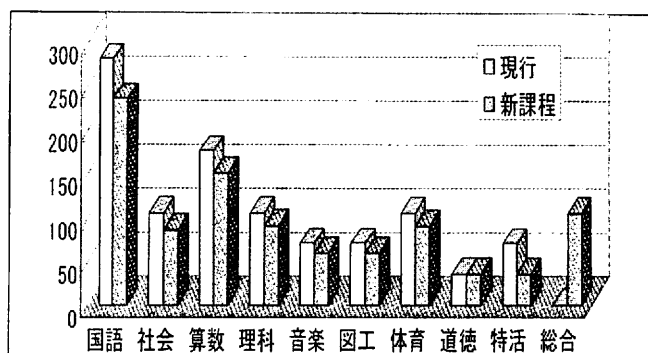
ウ、4年生を例にした新課程における仮の時間割

新課程で示された各教科の年間授業時数はこれまでと異なり、年間35週で週当たりの時数を割り出すと、各教科とも平均値が少数値となる。これは前項でも述べたように週時程、日程等で弾力的な運用を必要とするものである。その中で「総合的な学習の時間」の位置づけをどうするかは大きな課題となるが、設定例を考えると次のようになる。

図表-12 4年生週当たり標準授業時数（新課程）

	国語	社会	算数	理科	音楽	図工	体育	道徳	特活	総合
平均値	6.7	2.4	4.3	2.6	1.7	1.7	2.6	1	1	3
想定値	7	3	5	3	2	2	3	1	1	3
年計	245	105	175	105	70	70	105	35	35	105
新課程	235	85	150	90	60	60	90	35	35	105
増減	+10	+20	+25	+15	+10	+10	+15	0	0	0

- ① 年間を通して週時間割に一定して位置づける。
 - ② 年間1回に集中させて位置づける。
 - ③ 年間数回に分立させて位置づける。
 - ④ ①との組み合わせで②③を位置づける。
- 等があげられるがここでは、①を基本と考え、時間割4パターンを設定し、年間を通して4パターンを組み合わせることで適切な授業時数の確保を試みた。



図表-13

図表-14 時間割4パターン

	国語	社会	算数	理科	音楽	図工	体育	道徳	特活	総合	1週計	年実施週
A	7	2	5	3	1	2	2	1	1	3	27	10週
B	6	3	4	2	2	1	3	1	1	3	26	10週
C	7	2	4	3	2	2	2	1	1	3	27	10週
D	7	3	4	2	2	2	4	1	1	3	29	5週

V 研究の実際

1. 単元名 「チラシふしぎ発見」

2. 単元目標

- チラシについて「ふしぎ発見」をし、意欲的に課題を追求することができる。
- ふだん何気なく見過ごしているチラシから様々な「ふしぎ発見」をし、課題をもつことができる。
- 同じ課題をもつ者同士でグループを構成し、調べたり、まとめたり、発表したりすることができる。

3. 単元について

(1) 題材について

日頃から身近にあるものであっても、「なぜだろう」「どうしてかな」と意識的に考えることがなければ、「ふしぎだな」「調べてみたいな」と思うことはありませんか、と聞かれてもとまどうばかりである。

そこで、最も地域に密着した情報源の一つである折り込みチラシに着目させ、疑問点を焦点化させることにした。

チラシについて疑問点を焦点化させることは、別の角度から自分の住む地域を、見直すことでもある。しかしチラシの中には子どもたちはもちろ

ん、親にとってもまったく関係のない情報も数多くある。そこではおのずと情報の取捨選択を行っているといえる。

意図的に身近な素材であるチラシに関してふしぎ発見をカードを活用し疑問をもたせ、自ら発想した「ふしぎ発見」から課題を設定し、グループを組織してお互いが協力して追求したり、まとめ方や発表の仕方を工夫したりすることで、楽しく生き生きと学習できるのではないかと考えた。

そこで、「チラシふしぎ発見」を中心に据え、子どもの興味・関心に根ざした総合的学習として本単元を展開することにした。

(2) 児童の実態 (アンケートより)

題材との関わりからみると、古新聞やチラシに開しては「リサイクル資源として出している」が、11名、「ゴミといっしょに捨てている」が6名、となっている。「わからない」は15名もいる。また多くの児童がペットボトルやチラシなどを使っ

て何かを作った経験をもっている。

また、チラシはオモチャやゲームソフトの情報源として、子どもなりに活用している。さらに、チラシをよく利用する者として、母親をあげており、子どもたちは大人にとっても情報源としてのチラシの有用性を認識している。

課題解決の際の協力関係から見ると、ほとんどの児童が学校生活は楽しいと感じている。しかし3名の児童はあまり楽しくない、と感じている。休み時間は外での遊びが多く、帰宅後も外での活動が多い。また、放課後の部活動に参加している児童は男子11名に対し女子2名となっており、そのことがふだんの生活グループの構成にも影響していると思われる。

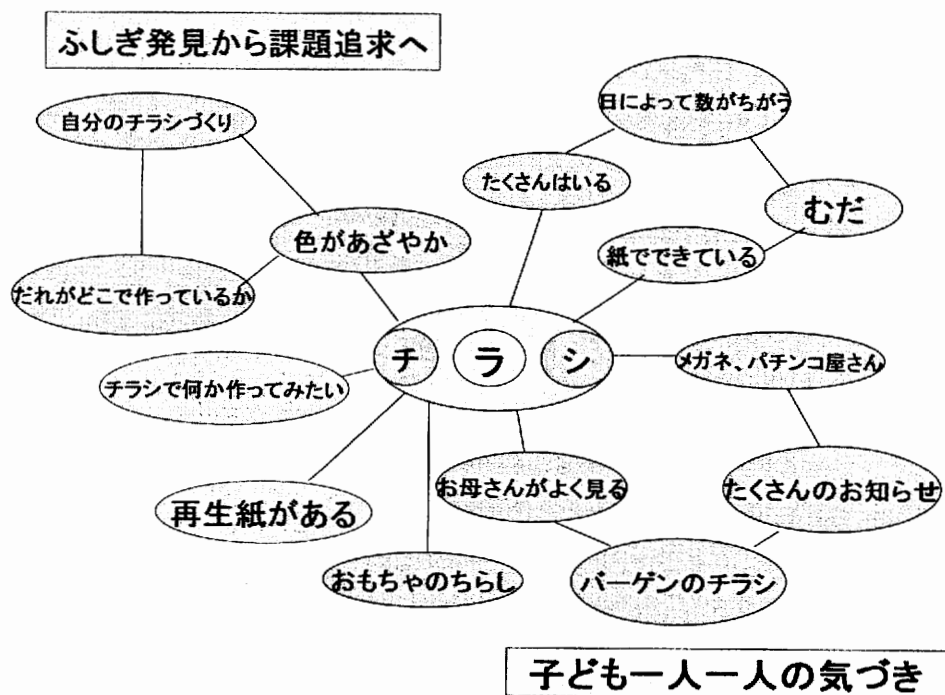
手伝いは男女ともよくやっているようで、特に男子は部活動で忙しいにもかかわらず、ほとんどの児童がおつかい、皿洗い、洗濯物の取り入れなどを手伝っている。

(3) ふしぎ発見から課題づくりへ

① 子ども一人一人の気づきを大切に

教師の投げかけた「チラシ」に対して子どもは一人一人が多くの疑問点や不思議なことを発見する。そのことをもとに課題づくり(個人)を行う。

図表-15

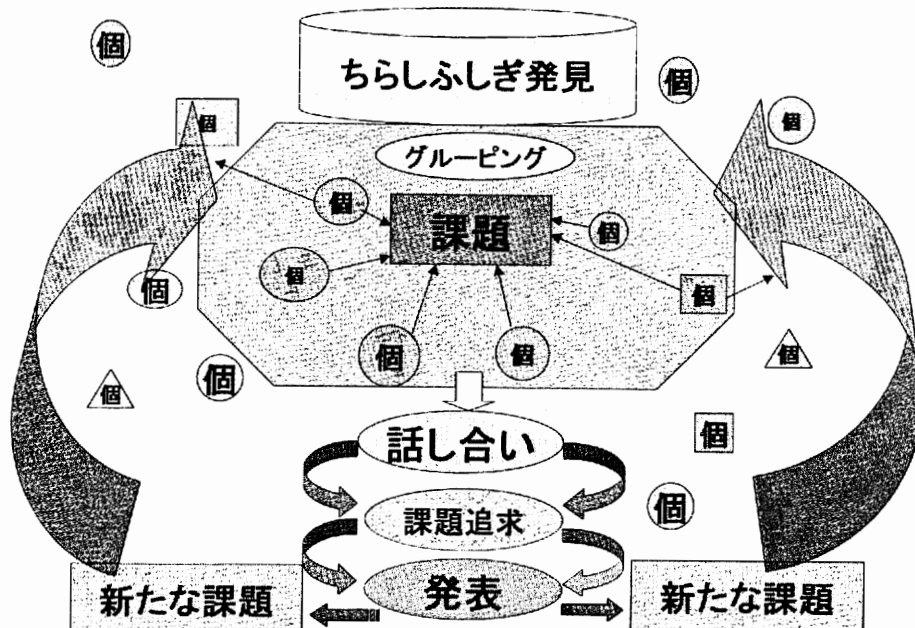


② グループングから課題追求へ

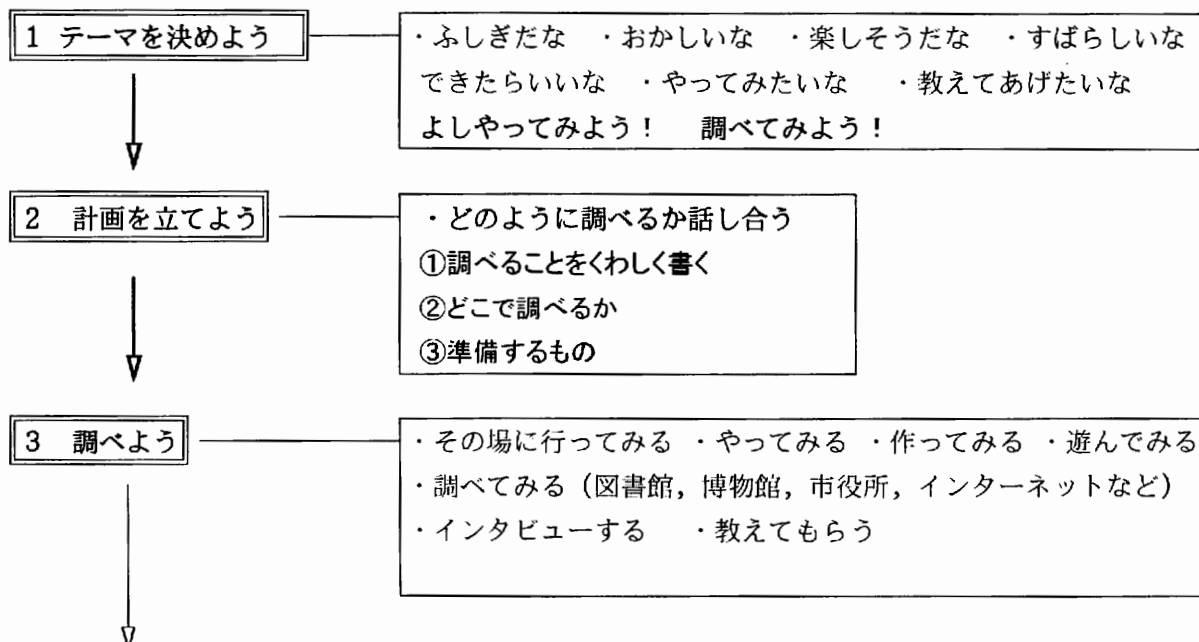
様々な課題の中から共通課題同士でグループングする。共同学習の良さを確認しながらも一人での課題解決も認めていく。グループとしての課題を再確認し役割分担，準備するものなどを話し合い課題追求に取り組む。

発表のあと新たな課題を見つけ，さらにグループングを行い次の課題追求に取り組む。

図表-16



(4) 学習のすすめ方



4 まとめよう



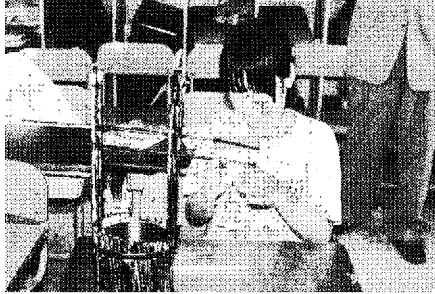
- ・大きな紙にかく（絵，地図，表やグラフ）
- ・OHPシートにかく ・絵本にする ・もけいをつくる
- ・げきや人形げきにする ・紙しばいにする
- ・クイズにする ・ビデオや写真，デジタルカメラでとる

5 発表しよう

- ・ゆっくり，はっきり大きな声で
- ・順序よくわかりやすく
- ・発表カード（原稿）にかいて自信をもって
- ・静かに聞く，分からないことは質問する

4 指導計画（9時間）

時	学 習 内 容	留 意 点									
1時	<p>○オリエンテーション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習の進め方 <p>チラシふしぎ発見ゲームをしよう</p> <p>○できるだけ多くの「ふしぎなこと」「わかったこと」などを発見競争をする</p> <div data-bbox="239 1202 542 1417" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="571 1202 949 1440" data-label="Text"> <p>曜日によって枚数がちがう カラーのチラシが多い 洋服のチラシが多い パチンコ屋さんのチラシが多い メガネ屋のチラシが多い うらが白いのがある 再生紙のチラシがある などの発見</p> </div> <p>ふしぎ発見カード NO1</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表する（発表の数で優勝グループ決定） ・他の班の発表も参考にしながら自分の課題を決める <p>○今後の学習の進め方の確認をする（ふしぎ発見カード）NO2</p> <p>きみ自身が「ミステリーハンター」（世界不思議発見より）となつてなぞをといていこう</p> <div data-bbox="239 1700 869 1848" data-label="Table"> <table border="1"> <tr> <td>ミステリー</td> <td>.....</td> <td>なぞ，ふしぎなこと</td> </tr> <tr> <td>ハンター</td> <td>.....</td> <td>かりをするひと，追い求める人</td> </tr> <tr> <td>ミステリーハンター</td> <td>.....</td> <td>なぞやふしぎなことを追い求める人</td> </tr> </table> </div>	ミステリー	なぞ，ふしぎなこと	ハンター	かりをするひと，追い求める人	ミステリーハンター	なぞやふしぎなことを追い求める人	<ul style="list-style-type: none"> ・前面黒板に1週間分のチラシを曜日毎に掲示する <div data-bbox="965 1099 1396 1394" data-label="Image"> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・だれも気づかないようなことを意識してさがそうとする ・どんな些細なことでも認めあうようにする
ミステリー	なぞ，ふしぎなこと									
ハンター	かりをするひと，追い求める人									
ミステリーハンター	なぞやふしぎなことを追い求める人									
2時	<p>課題づくりをしよう</p> <p>○同じような課題とおして班づくりをする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話し合い 	<ul style="list-style-type: none"> ◎解決するのに無理な課題はないか ・個人の課題を変更してもよい 									

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 班長を決め班としての課題を決定する ・ 班で話し合ったこと、決まった課題を発表する ・ 課題が決まった理由 <p>個人の課題を元に決まったグループ</p> <table border="1"> <tr> <td>① チラシの種類調べグループ</td> <td>7人</td> </tr> <tr> <td>① 特売日のひみつグループ</td> <td>4人</td> </tr> <tr> <td>② チラシのやくめグループ</td> <td>3人</td> </tr> <tr> <td>③ チラシ探検グループ</td> <td>5人</td> </tr> <tr> <td>④ チラシのオモチャ値段しらべグループ</td> <td>9人</td> </tr> <tr> <td>⑤ チラシで作ろうグループ</td> <td>9人</td> </tr> </table>	① チラシの種類調べグループ	7人	① 特売日のひみつグループ	4人	② チラシのやくめグループ	3人	③ チラシ探検グループ	5人	④ チラシのオモチャ値段しらべグループ	9人	⑤ チラシで作ろうグループ	9人	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一人で課題解決してもよい 
① チラシの種類調べグループ	7人													
① 特売日のひみつグループ	4人													
② チラシのやくめグループ	3人													
③ チラシ探検グループ	5人													
④ チラシのオモチャ値段しらべグループ	9人													
⑤ チラシで作ろうグループ	9人													
3時	<p>活動計画をたてよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 班長を中心に活動計画をたて、役割分担を決める ○ 話し合った結果を発表する <ul style="list-style-type: none"> ・ 課題の確認 ・ 課題を解決する方法 ○ 方法についてのアドバイス <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分たちの力で解決可能か ○ 課題解決の具体的な計画 <ul style="list-style-type: none"> ・ 親に聞く、図書館で調べる、電話や手紙で尋ねる、実際にやってみる <p>調べよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ いつ ・ どこで (場所, 集合場所) ・ どういう方法で ・ 準備するもの (だれが, なにを) <p>○ 次の時間までにやっておく (目標) ことを確認</p>	<p>・ 「ふしぎ発見カード」NO 3 — 活動計画表 —</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 児童の力で可能かチェックし 父母や教師など大人の力も得られることを知らせる ・ 子どもにとって無理な活動に対してはアドバイスしより適切な課題への変更も考慮する ・ 計画に無理がないかチェックする。必要な教師 (父母) への援助を確認する 												
時間外 各グループで計画を元に課題解決														
4時	<p>中間まとめをしよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 調べたこと、やってきたことを元にミニ報告会のまとめをしよう ○ 発表の方法について <ul style="list-style-type: none"> ・ 発表原稿 ・ 新聞づくり ・ 視聴覚機器を使って 他 ○ 発表の時の役割分担を話し合う (カードに記入) <ul style="list-style-type: none"> ・ だれが発表するか (代表, 全員など) ・ 資料, 図などの係り 	<p>「ふしぎ発見カード」NO 4 (ミニ報告会)</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎ 最終の報告会でも生かせるようにする ・ 様々な発表の仕方があることを知る ・ 視聴覚機器 <ul style="list-style-type: none"> ○ H P, V T R (ビデオ), デジタルカメラ, OH カメラ ビデオカメラ 等の紹介 												

5時	<p style="text-align: center;">中間報告会をしよう</p> <p>○調べたこと、やってきたことをわかりやすく発表する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループの交代はてきぱきと ・1グループ3分程度で発表する ・聞きながらよかった点、疑問点、意見等をメモする <p>○他の班の活動内容がわかり今後の見通しをもつ</p>	<p>◎各発表原稿</p> <p>◎最終の報告会のリハーサルをかねていることを知らせる</p> <p>◇わかりやすく堂々と発表できたか</p> <p>◇協力しあえたか</p> <p>◇他の班の活動内容がわかったか</p>
時間外 各グループの計画を元に課題解決		
6時	<p style="text-align: center;">まとめをしよう</p> <p>○ミニ報告会の反省を元に効果的な発表の仕方について話し合う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・何を使いどんな方法で発表するか <p>○使用する視聴覚機器の使い方になれる</p> <p>○これまでの活動内容を確認し、報告会の準備をする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表原稿 ・資料づくり、TP作成、ビデオ編集等 	<p>◎ミニ報告会で他の班の方法でいいものは取り入れる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各機器は使用しやすいようにセットしておく ・コピー機、放送室の機器操作等の指導
7時	<p style="text-align: center;">報告会の準備をしよう</p> <p>○前時の続きの活動をする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・役割分担の確認、 ・各班で発表のリハーサル（1グループ5分程度） ・プログラムづくりや全体的な準備をする（希望者） 	<p>◎発表がスムーズにいくように資料の掲示、取り外し、ビデオ操作等の役割分担を確認しリハーサルをする</p>
8時 本 時	<p style="text-align: center;">最終報告会をしよう</p> <p>○調べたり、やったりしたことをわかりやすく発表する</p> <p>○各グループの発表は5分程度とする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表の仕方ではよかった点、わかったことや疑問に思ったことをメモしながら聞く ・発表が終わったらメモしたことを積極的に発表しよう <div data-bbox="338 1685 783 1982" style="text-align: center;"> </div>	<p>「ふしぎ発見カード」NO5 チェックメモ</p> <p>◇説明はよくわかったか</p> <p>◇発表仕方はどんな点を工夫していたか</p> <p>◇質問事項に適切に答えられたか</p> <p>◇発表の態度はどうだったか</p> <p>◇メモを取りながら、静かに聞いたか</p> <p>◇よかった点、疑問点などを発表できたか</p>

9時	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">「チラシふしぎ発見」の学習を終えて</div> ○前時の学習をふりかえって ○学習のまとめをしよう <ul style="list-style-type: none"> ・協力し合って楽しくできたか ・「チラシふしぎ発見」の学習でどんなことがわかったか ・「チラシ」に関してもっと知りたいこと、調べてみたいことは何か ○ひとつのこと（チラシ）から様々なことがわかることに気づく	「ふしぎ発見カード」NO 6 （学習のふりかえり） ◇ふだん何気ないものでもミステリーハンターの目で見つめ直してみると多くのことがわかることに気がついたか ◇次のテーマをもてたか
----	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------

5 本時の学習（8／9）

（1）目 標

- 自分たちが調べたことをまとめ、様々な方法で効果的に発表できる。
- 他のグループのよさを発見し、「チラシ」からいろんなことがわかり、もっと調べてみたいと思う。
- 協力し合って楽しく発表でき、満足感をもつことができる。

（2）準備するもの

- ・視聴覚機器
 （OHP、ビデオカメラ、デジタルカメラ、OHカメラ、ビデオデッキ）
- ・マグネット ・「ふしぎ発見カード」NO 6 ・指示棒 ・タイマー

（3）展 開

時間	学 習 活 動	留 意 点 ・ 評 価
はじめ 4分	1 今日の学習のめあてを確認する ①協力し合って ②わかりやすく ③楽しく <div style="display: flex; align-items: center; margin-top: 10px;"> <div style="border-left: 1px solid black; border-right: 1px solid black; width: 20px; height: 20px; margin-right: 5px;"></div> <div style="border-left: 1px solid black; border-right: 1px solid black; width: 20px; height: 20px; margin-right: 5px;"></div> <div style="border-left: 1px solid black; border-right: 1px solid black; width: 20px; height: 20px; margin-right: 5px;"></div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-left: 10px;">発表しよう</div> </div> 1班5分の発表時間とする $5 \times 6 = 30$ 分 質問は発表毎に1分以内でやる $1 \times 6 = 6$ 分 まとめ5分	○「ふしぎ発見カード」NO 5を配布し、記入の仕方を説明する ○時間内で全部の班の発表ができるように効果的な発表と班の交代はてきぱきとやるよう指示する ◇本時の見通しをもてたか
なか 36分	2 各グループごとに発表する ① チラシの役目グループ ・インタビュー（ビデオ使用） ② チラシの種類調べグループ ・大きさ、紙の質、曜日毎の数と種類（グラフ化） ③ 特売日のひみつグループ	○発表は自信をもって礼儀正しく堂々とやる ○各グループの発表が終了したら拍手を惜しまない

<ul style="list-style-type: none"> ・インタビュー、アンケート（母親へ）、クイズ ④ チラシ探検グループ ・インタビュー（ビデオ、デジタルカメラ使用） ⑤ チラシのおもちゃねだん調べグループ ・同じおもちゃのねだんの比較（OHカメラ使用） ⑥ チラシでつくろうグループ ・作った作品の紹介と作り方の説明（図示） <p>☆各グループ発表終了後1分程度で質問や気が付いたことの発表をする</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○メモは要点をまとめて簡単に取るように指示する ・わかったこと ・おやつと思ったこと ・よかったこと ○機器の操作については随時教師の側で補助する ○質問等に関してはてきばきと答えるようにし、場合によっては教師の方で援助する
<p>ま と め ・ 5分</p> <p>3 まとめをする</p> <ul style="list-style-type: none"> ○チラシの学習でわかったこと、たのしかったこと、さらに発見した、ふしぎなこと、もっと調べてみたいことなどを書く ○書いたものを発表する（各班1人程度） ○次時の予定を知る 	<ul style="list-style-type: none"> ○「ふしぎ発見カード」NO 6」学習のふりかえり ○自分なりの感想をもてたか ○他のグループの発表を通して様々なことがわかり、新たな「ふしぎ発見」ができたか

(4) 評価

- あいてにわかりやすく、自信をもって発表できたか。
- 効果的な発表の仕方がわかったか。
- 友だちの発表を静かに聞き、いいところをみつけることができたか。
- チラシから様々なことがわかったか。

は、わかったと思うが基本的な発表の仕方（態度、基本話形、声の大きさ等）は普段の授業、学級活動等でも身につけさせたい。

- ビデオ撮影や、インタビュー、子供の搬送など、父母の協力が得られたのはよかった。
- 興味のあるような課題（おもちゃのねだん調べなど）には多くの児童（9名）が飛びついたが、何をどうしていいのかはつきりしないまま取り組ませてしまった。

6 検証授業の反省

(1) 授業者の反省

- 自分たちで決めた課題について、工場見学や、スーパー見学などの申し込みの電話を積極的にかけるなど課題解決に対する意欲がみられた。
- 発表に要する時間が足りず、時間がオーバーしてしまった。やはり子供たちにやった、という成就感を得させるためにも余裕をもって2時間連続か、または前半、後半各1時間ずつとるべきであった。
- 発表の方法（発表の形式、機器の操作等）

(2) 児童の感想

- チラシはいつも何とも思わないが、この発表を聞いてチラシにもいろんなひみつや工夫があるんだなあと思った。自分たちの番はとてもどきどきしたが、とても楽しく発表できた。
- チラシでかごを作るととても楽しかったです。サンエー（スーパー）などではカメラやビデオなどは、もってきてはいけないことがわかった。（撮影の禁止）

- チラシの勉強でコープ（スーパー）へ行ったり、インタビューなど楽しくできました。教室もたくさんのチラシでかざりつけしてとても楽しかったです。
- チラシで花びんやかごがつかれるんだなあと思いました。
- グループの友だちともなかよく協力しあって楽しく勉強できました。今日でチラシの勉強はおわったけどまたいろいろ調べてみたいです。
- いつもの勉強とちがって、自分たちで計画をたてて、表やグラフにまとめて発表したり、OHPのスクリーンにうつして発表したり、ビデオカメラやデジタルカメラで発表しているグループもありとてもよくわかりました。

(3) 次にやってみたいことは何ですか。

- かごづくりやおもちゃづくり（なにかを作ってみたい）
- ほくもおもちゃの値段調べをやってみたい
- チラシを色で分けてみたい
- チラシに使われている言葉について調べてみたい

VI 研究の成果と課題

1 成果

- ① 毎日なにげなく見ているチラシにもこんな様々な「ひみつ」があり、多くのことがわかるんだ、ということで子供なりに感動があった。
- ② 身近な素材ではあるが、ほとんど関心を示さない物でも、教師の投げかけ方によっては、興味・関心をもって取り組めることがわかった。
- ③ 地域の協力や父母の協力も得られることができたのはよかった。特に地域（スーパーや印刷会社）等の積極的な対応に対しては子供たちなりに、感謝の気持ちを持つことができた。

○ 作業仮説にもとづく考察

作業仮説1 気づき

「ふしぎ発見」をゲーム化することで、どんなささいなことでも見つけようとする姿勢がみ

られた。

作業仮説2 課題づくり

同じような興味関心をもった者同士ということで、グループ編成もスムーズにでき共通課題も教師の支援をうけながらではあるが設定することができた。

作業仮説3 協力と課題解決

よりよい課題解決のために様々な方法を話し合っ

作業仮説4 効果的なまとめ方や発表の方法

効果的なまとめ方や発表の方法がわかり、調べたことの共有化が図れた。

2 課題

- (1) 子供の主体的な課題追求の面からも、教師の支援をどこまでやればいいのか前もって検討する必要がある。
- (2) 校外学習を行う際の継続的な父母の協力体制づくりをどうすすめるか。
- (3) 地域の協力体制を得るためのネットワークづくりをどうすすめるか。

終わりに

21世紀と明治以来の大改革といわれる完全週5日制を目前に控え、6ヶ月の間自分なりに腰を据えて研修できた意義はとても深いものがある。

これからの社会は先行き不透明ともいわれるが、目の前の子ども達は未来からの訪問者、未来に生きて行く子ども達である。あらゆる意味で大人の責任の重大さをひしひしと感じる。

今後とも鋭意努力し、自己研鑽にはげんでいきたい。

最後に担当指導主事として御指導いただいた浦添小学校教諭の初鹿野修先生、また6ヶ月間という長期にわたる研究の機会を与え支援して下さいました浦添市立牧港小学校、前泊校長先生をはじめとする諸先生方や浦添市教育委員会の先生方、そして当研究所の新城所長、池田係長、与古田主事、他職員の皆様に心から感謝申し上げます。ありがとうございました。

主な引用・参考文献

- 「小学校学習指導要領」 1999 文部省
- 「小学校学習指導要領解説 総則編」文部省 1999 東京書籍
- 「総合学習の理論」 高浦勝義編著 1997 黎明書房
- 「総合的な学習の実践」 人間教育研究協議会編 1999 金子書房
- 「小学校総合的な学習ガイドブック」 児島邦宏／山極 隆／谷澄男 編 1998 教育出版
- 「総合・探求学習と新カリキュラム構想」 神戸大学発達科学部附属幼稚園・明石小・中学校研究会 1998 東洋館出版社
- 「総合的な学習の創造」 児島 宏／北村文夫／寺崎千秋／梶井 貢 編 1997 教育出版
- 「子どもが輝く総合学習」 名古屋大学教授 安彦忠彦 監修 岡崎市立六ツ美北部小学校 著 1998 黎明書房
- 「研究紀要」 千葉市教育センター 1999 千葉市教育センター
- 「研究報告集録」 浦添市立教育研究所 1998 浦添市教育研究所